

## 透析医のひとりごと

### 「阪神・淡路大震災から 20 年」 宮本 孝

私は昭和 46 年卒で透析医療に携わって 42 年の経験しかない、透析創生期の先輩の先生からバトンを渡された第 2 走者であり、「透析医のひとりごと」を執筆させていただくには、まだ少なくとも 5~10 年は早いと思っております。そういう訳で、私が持っていて他府県の先生方がお持ちでないこととなりますと「阪神・淡路大震災の体験」しかありませんので、今回はその話をさせていただきます。

平成 7 年 1 月 17 日大震災が発生し、死者 6,432 名、行方不明者 3 名、全壊家屋 10 万戸以上、全焼家屋 6,000 戸を超え、また、透析患者の死亡も 74 名を数えました。当時、透析不能に陥った医療施設は 66 施設ありましたが、透析担当医は、他院への患者搬送、透析再開に向けて必死で活動されていたことでしょう。私も自分のエンジンが生涯で一番フル回転していたなあと後になって思いました。

兵庫県透析医会初代会長の原信二先生は当時、病床の身であったにもかかわらず、透析医療機関への「水の確保」を神戸市水道局に掛け合ってくれました。また、原病院が少し高台で比較的地盤が安定していたため、電気、水が確保されると直ちに透析を再開し、周辺の透析施設の患者を引き受けられました。先生は、被災日深夜私に電話をくれ「西宮は大丈夫か？」と尋ねてくれました。「水の確保に悪戦苦闘しています」と言う。「ほんならそちらへ水まわそうか？」と言ってくれました。西宮よりもっと被害が甚大と思われた神戸市中央区の医療機関から水をいただくということなど夢にも考えていなかったので「めっそもない」とお断りしましたが、感激の余り涙ぐんだことを覚えています。先生とは短い会話でしたが、それにより随分力づけられました。原先生はその年 4 月に永眠されました。震災後の奮闘により確実に死期を早められたと思いますが、一段落されてからでしたので先生もほっとされて、旅立たれたのだと思います。

あれから 20 年、私達はなにをしてきたのか。被災当初 1~2 年は兵庫県透析医会として様々なシンポジウムを組み、水道局、電力会社、消防局、NTT、建設会社の方々を含め反省点と今後のあり方について検討しました。また、各透析医療機関からも報告がなされ、私もその年の 6 月に「阪神大震災報告—透析サテライト施設の反省と教訓」を発行し全国の透析サテライト施設にお送りしました。県透析医会の危機管理委員会は、お互い「自助」の徹底と連絡網の整備を確認した後、時の経過とともに年 1 回の災害情報伝達訓練以外特にする事もなく、実質的には休眠状態に入っていました。その後 10 年近くが経過し、平成 16 年、内藤秀宗先生が神戸で日本透析医学会大会長をされた時、震災シンポジウムが開催されたのが縁で、神戸大学海事科学部井上欣三教授と日本透析医会山崎親雄会長が邂逅し、「海にも道がある」を合い言葉に「災害時医療支援船事業」を立ち上げられることとなりました。検証航海が主となるので関西圏プロジェクトの実

動部隊として兵庫県の医師，看護師，臨床工学技士および透析患者（兵庫県腎友会）がその都度参加しました。大阪，神戸を中心として，和歌山，徳島の透析医会と共同の搬送訓練も行いました。その後このプロジェクトは，日本透析医会から兵庫県透析医会に引き継がれ，今日に至っています。

この10年間，透析に関係する各組織の役員が集まって，次回の企画を打ち合わせたり，反省会をする中で当初予想していなかった成果が蓄積されてきています。それは，透析関係者同士（各職種の透析従事者，患者）の信頼関係の構築が自然と出来上がってきたということです。そして5年前には各組織の役員が一堂に集まる兵庫県災害対策合同委員会と名を変え，約2カ月に1回集まりを持っていて，災害対策全般について検討しています。最近は，兵庫県難病団体連絡協議会にも参加していただいています。従来は，年1回の県透析医会と腎友会との会合があるのみで，しかもそこはどちらかという腎友会の透析医会に対する要求集会的な役割をしていましたが，最近では随分マイルドとなり，要求よりも相談し合うという雰囲気になってきています。

また，万一大震災が起こったら頼れる実動部隊は看護師であり，臨床工学技士です。彼らがやる気になって色々アイデアを出し，行動の先頭に立ってもらっていることは有難く，また，頼もしい限りです。多分，個別の透析医療機関でも同じではないでしょうか。

阪神・淡路大震災20年で私達が得たものはミーティングと共同行動を積み重ねた結果，「いざという時，迅速かつ有効な対応をお互いの信頼の下にできる」という自信がついてきたということだと思います。もっとも，元来，透析医療は患者さんの生活と一体化したものであり，これは自然のなりゆきかもしれません。

宮本クリニック（兵庫県）